

研 究 報 告 書
令和5年度：B課題

2025年4月28日

公益財団法人 がん研究振興財団

理事長 堀 田 知 光 殿

研究施設 国立がん研究センター

住 所 東京都中央区築地 5-1-1

研究者氏名 竹内 恵美

(研究課題)

がん患者の遺族のうつおよび悲嘆に対する認知行動療法の予備的有効性検証：一群介入前後比較試験

令和6年 3月 18日付助成金交付のあった標記B課題について研究が終了致しましたのでご報告いたします。

目的

がんで大切な人を亡くした遺族 11 万人に対する調査において、うつおよび悲嘆症状の有症率はそれぞれ 19%、31%であり、支援のニーズは 14%存在した（国立がん研究センター，2018）。大切な人を亡くした遺族の悲嘆プロセスは一般的に社会や文化的な影響を及ぼすと言われることから、日本独自の介入方法を検討することは重要と考えられる。メタ解析を行った結果、がん等の身体疾患を抱える患者の遺族に対して非薬物療法を行うことは中程度の効果が示されたが、日本におけるエビデンスは存在しなかった（Akechi et al, 2022）。従来の一般的な遺族に対する心理療法の欠点として、介入回数が多く、患者の負担や侵襲性が高いことが考えられる。代表的な心理療法はセッション数が 16 回と多く、死別の瞬間という最も苦痛が伴う出来事を繰り返し想起するという治療法を用いることが多い。よって、本研究では、がん患者の遺族における精神的苦痛に対して認知行動療法が実施可能であるかを探索することを目的とした前後介入比較パイロット試験を実施する。

方法

本研究では、一群介入前後比較試験を行う。リクルートはウェブサイトやチラシで家族・遺族ケア外来および研究に関する周知を行なう。対象者は、悪性腫瘍を主な理由により親、子、配偶者、兄弟を亡くした 18 歳以上の遺族で、死別から 6 か月以上が経過し、Inventory of Complicated Grief でカットオフ値（30 点）以上の者を対象とする。介入方法は、対面にて認知行動療法に基づく 90 分のカウンセリング 4 を 8 回実施する。その頻度は 2 週間を基本とし、すべてのセッションを 4 か月（最長 8 か月）で終了する。サンプルサイズを算出し、予定登録患者数 15 名と設定した。評価指標については、Primary endpoint は完遂率、secondary endpoints は、悲嘆、うつ症状とする。悲嘆やうつ症状の自記式質問紙を用いて、ベースライン、介入直後、4 か月後にて測定する。なお、進捗は、研究者の妊娠による体調不良により遅れており、国立がん研究センター研究倫理審査委員会への IRB 提出段階で、承認までに 6 か月間を要する。次の結果は、本介入研究に際してエビデンスづくりのために実施した症例報告およびレビュー論文について報告する。

結果

① がん患者の遺族における facsimile illness

がん患者の遺族の特徴の一つとして、facsimile illness という現象がある。これは、故人が闘病中に訴えていた身体症状と同じ症状を訴えることである。介入を通して、悲嘆が軽減して身体症状が消失した症例についてことについて、症例報告としてまとめた。

② 死別前からの予防的介入

がんは予後予測が可能な特徴から、死別前から緩和ケアチームやプライマリーチーム、精神保健の専門家が介入することで死別後の悲嘆症状が軽減されるかという予防的介入の可能

性についてレビューを行うことを実施した。その結果、予防的介入の有効性は示されず、死別後のアウトカムを副次ではなく主要ターゲットとした介入開発が必要であることや、研究の課題として死別後の経過観察が困難であることや死別前とアウトカムの評価が一部死別前の家族による評価が混在すること、などが示された。本研究の結果はレビュー論文にまとめ、現在査読を受けている。

考察

本研究は、従来の遷延性悲嘆障害に対する介入と異なり、対象者をがん患者の遺族に限定することで、がん患者遺族特有の問題を扱うことに焦点を当てることで、患者の負担や侵襲性を軽減させて脱落率を下げる試みを行う上で、新規性がある。

研究成果

Matsuoka H, Takeuchi E, Kato M. Physical symptoms in prolonged grief disorder: a case report. *Ann Palliat Med*. 2024 Nov;13(6):1530-1536. doi: 10.21037/apm-24-53. Epub 2024 Aug 20. PMID: 39168644.

竹内恵美, 松岡弘道. Facsimile Illness を伴う遷延性悲嘆症を抱える遺族の一例. 第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会. 2024 年 6 月. 神戸

Takeuchi E, Sadahiro R, Ogawa Y, Matsuoka H. Narrative Review of Cancer Bereavement Care Before Loss. *Japanese Journal of Clinical Oncology* (投稿中)